

再編統合新病院の経緯及び整備候補地（案）について

1. 経緯

三田市民病院は、「①医師不足、②施設の老朽化、③医師の働き方改革」等により、このままでは、24時間365日体制の救急医療をはじめとする急性期医療を維持し続けることは困難であるとしています。

一方、済生会兵庫県病院は、「①医師不足、②施設の老朽化、③経営収支の悪化」等により、済生会兵庫県病院単独で、将来的に地域の基幹病院として急性期医療を維持・継続していくことは困難との報告がありました。

“このまま何もしなければ、北神・三田地域で急性期医療の対応ができなくなる。”

そこで、令和3年6月に神戸市と三田市で「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」を共同設置し、5回にわたって北神・三田地域の急性期医療を将来的にも維持・充実するための方策を検討し、「三田市民病院と済生会兵庫県病院との**再編統合が最も望ましい。**」、「その際には、現在の利用者にとって交通アクセスの利便性に変化が生じるため、**両病院の中間地点が望ましい。**」との報告書が令和4年3月25日に出されました。

本報告書の内容等を踏まえて、神戸市、三田市及び済生会兵庫県病院の三者で協議を行った結果、三田市民病院と済生会兵庫県病院が再編統合して新病院を整備することにより、三田・北神地域の急性期医療の充実を目指すこととし、6月2日に三者の合同記者会見で発表しました。

2. 三者の役割

- 三田市 新統合病院の設置者
- 済生会兵庫県病院 新統合病院の運営者
- 神戸市 北神地域の急性期医療を確保するための財政支援、用地の確保

3. 神戸市の整備費等、運営費の負担

(1) 用地取得費

三田市の企業債の元利償還に合わせ、地方交付税措置額を除く三田市の実質負担額を負担

(2) 整備費

三田市の企業債の元利償還に合わせ、救急医療、周産期医療に係る病床分を対象に、両病院の入院患者総数に占める神戸市民の入院患者の割合で負担

(3) 運営費

救急医療、周産期医療に係る収支不足相当額を対象に、前年の入院患者数に占める神戸市民の入院患者の割合で負担

4. 整備候補地案

整備候補地の選定にあたっては、検討委員会からの「両地点の中間地点が望ましい」との報告を踏まえ、3つの条件を必要条件としました。

- ・ 中間地点付近であること（患者の利便性のため）
- ・ 幹線道路沿いであること（救急搬送を円滑に行うため）
- ・ 400～450床規模の病院に必要な面積を確保できること（今後の医療需要のピークに対応するため）

検討の結果、両病院の中間地点付近にあり、かつ、幹線道路沿いである神戸市北区長尾町宅原（えいばら）を新統合病院の整備候補地（案）としました。

